

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972501035		
法人名	特定非営利活動法人フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者グループホーム愛里須		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子乙4402-2		
自己評価作成日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者グループホームとして、地域密着ということで近くの中学校と関わりを持ったり、地元のボランティアグループを多数受け入れ、利用者が多くの住民と交流を持てるように力を注いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、町の中心部に位置し、近くには役場や学校、公共施設等があり、地域祭りや、町・商工会等の行事にも参加している。また、観光地にも近く、利用者は四季を問わず訪れることが出来る。
 食事は元コックの調理職員が3食とも手作りしている。季節の野菜や果物等を使い調理している。利用者も可能な範囲で、調理や片付け等に参加し、食事を楽しんでいる。
 入浴は、1日置きで、利用者の体調や希望に合わせて実施している。浴室は2つあり、一般浴と機械浴がある。特に、最新導入したミストシャワー型機械浴は、快適で洗身やミストによるマッサージや保温効果があり、利用者の満足度が高い。職員も入浴介助負担が軽減し好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、また常に見えるところに理念を掲示している事で、職員全員が理念を共有し、意欲的に実践している。	事業所の理念として人を尊重し、人に感謝し、人に真心で接するを掲げ、職員が常目にしやすいスタッフルームやリビングに掲示している。利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者に寄り添い、感謝の気持ちでケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての姿勢で地域の行事に参加し交流できるよう支援している。	事業所近くで自転車ロードレースやマラソン大会、夏祭り等、町や商工会が行うイベントあり、利用者は応援等に参加している。また、近所の農家から野菜の提供や、苺農家から招待の苺狩り等を通して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを開き、認知症の理解、支援の方法などを地域の人々に向けて、気軽な相談から積極的に活かしている。現在はコロナの為、開催できない状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、地域住民などの外部からの貴重な意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、コロナ・インフルエンザ感染防止のため書面決議にしている。管理者等が会議メンバー自宅へ訪問し、資料等を説明しまた意見をいただいている。意見等は、事業運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、情報交換をしながら協力関係を築き、那須町の為に積極的に取り組んでいる。	町の担当者とは、電話やメールにて、指導を受けたり、介護運営等の相談や情報交換行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を設け、職員一人ひとりが拘束をしないケアについて確認し、真剣に取り組んでいる。	毎月の全体会議や研修受講者の周知研修を通して、職員は出来るだけ利用者に寄り添ったケアを心がけ、身体拘束を発生させない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を設け、いかなる場合も虐待はいけないことを職員に徹底し、虐待のない事業所として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を通じ、理解し、より深く学べるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の説明を丁寧に行い、十分に納得いただいてから契約に至るよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の家族等が来苑された際、又は運営推進会議において、意見を頂き参考にさせていただいている。	家族からは運営推進会議で出た意見や家族の来訪した際の要望等を聞いている。利用者については、日常会話やケアの中で食事や外出希望等を把握し可能な範囲で応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の打ち合わせ、また毎月の職員会議などで積極的に意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	職員の意見等は、普段の業務の中で管理者等が吸い上げ反映している。連絡ノートや気付き報告等を主任や管理者が把握し業務改善等につなげている。職員の入浴介助負担を軽減するため機械浴の導入もおこなった。	職員の意見等を参考に手書き資料から、スマホ・タブレット等を活用したデジタル化の導入・業務効率化等を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、施設長、管理者が常日頃から職場の環境に注視しており、個々の生活状態も聞き取り、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場の資格取得などの支援をしている。また、質の向上に努め常により良い手段を考えて、仕事に向き合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の施設との交流も増えてきており、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことにより本人の思いを理解し、安心できるような信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことにより家族の思いを理解し、不安を感じさせないよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、しっかりとアセスメントし、まず何が必要かを見極め、対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人のできる事、できない事を把握し、暮らしを共にする者として、できる限り協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人を支えていく上で、職員・本人・家族の絆を大切にしながら、家族と共に同じ思いで取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等の面会の度、一緒に写真を撮り、アルバムに収め、いつでも見られるように取り組んでいる。	家族や友人が来訪した時に、利用者と一緒に写真を撮りプレゼントしている。また、職員が利用者毎のアルバム作成したり、事業所だよりに掲載し、関係性維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけフロアで過ごして頂き、利用者様同士が関わり合い、関係を深められるように取り組んでいる。外出なども積極的にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方との関係性も大切にし、必要に応じて相談や支援も行えるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	利用者との普段の会話から、好きな食べ物や外出希望等を把握し可能な範囲で本人の希望を実現できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族が来処所された際に、これまでの生活歴や生活環境を聞き把握に努めている。ご本人様との会話からも引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの利用者様の現状が把握できるように情報共有の仕組みを実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見を聞いたり、月1回の職員会議での意見を参考にしながら、介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は、家族との面会・電話連絡時に利用者の状況を伝えながら要望を把握し作成している。職員の意見等は、職員会議やケアチェックノート等を参考に計画を作成している。状態の変化があれば都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な種類の個別記録をもとに、日々の様子や気づきを介護計画の見直しに十分活かしている。気づきシート、ヒヤリハットシート等の記入により、カンファレンスを設け、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の作った枠組みにとらわれず、臨機応変にご本人に最適なサービスが提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催のイベントを中心に、積極的に地域資源を利用し、楽しい生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として本人及び家族の希望を尊重し、事業所として、その医療機関と信頼関係を築きながら支援している。	事業所から、車で2～3分の所に、協力医療機関があり、利用者の体調に変化等がある場合は、事業所の看護師と連携を図りながら速やかな診療につなげている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の身体状況を確認し、変化があった際は、すぐに看護師に報告し、早めの対応に取り組み、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の同行、入院中の面会、家族との連絡を密に取り合い、直接医師より話を伺ったり、情報交換をして、より良い関係づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院先の医療チーム、当ホームの協力医療機関、ご家族とよく協議し、話し合いを重ね、良好な関係を構築している。	重篤化した場合や終末期の対応については、入所時に家族と話し合い方針を共有している。事業所の看護師が中心となって協力医との連携を図り利用者や家族の希望に添った看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急体制マニュアルの沿って実践できるようにし、定期的に研修を行い、職員一人一人の技術を身につけていけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている他に、夜勤者2名での模擬訓練を毎月行い、消防署や近隣との協力のもと、万が一の災害に備えている。	災害対策マニュアルが整備され、年2回訓練を行っている。また、夜勤担当者は災害を想定した机上訓練を毎月実施して、対応意識を高めている。食品類の備蓄は、同法人関係商店の大型冷蔵庫等に必要数を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境をよく把握し、言葉遣いなどに気をつけ、人格の尊重を優先し、生活援助に取り組んでいる。	年間を通して目標として、「ね」や「よ」を付けた丁寧な言葉使いに取り組んでいる。また、管理者は職員と利用者や家族との相性も考慮し、対応者を変えて支援等行うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者の意思表示を促す声かけをし、自己決定ができるように職員全員がしっかりと働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先することなく、その人らしさにこだわり、個々のペースに合わせて生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や季節、天候によっておすすめしたり、本人の希望に合わせて支援している。手作りの料理を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューを公表し、それを話題にしたり、できる範囲で調理、片付けなどの手伝いをして頂き、楽しみながら行っている。	食事は、元コックの調理職員が献立を考え、3食とも手作りしている。季節の野菜や果物等を使い調理している。利用者も可能な範囲で、調理や片付け等に参加し、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事や水分の摂取量を記録し、変化があれば、すぐに話し合いを持ち、常に栄養や水分の摂取に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、必ず仕上げは職員がお手伝いさせて頂き、清潔保持できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを常に把握できるように排泄チェック表をつけ、トイレでの排泄ができるように支援している。	利用者の排泄パターンや動きを見て声掛けを行い、出来るだけトイレでの排泄支援を行っている。夜間は転倒等恐れのある利用者を除き、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、運動などを考え、そして毎日手作りヨーグルトを摂取することで極力薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく事業所側の都合と利用者様の希望が合うように時間帯を調整し、より楽しく快適に入浴できるように支援している。介護度の高い方への負担軽減の為、機械浴を導入した。	入浴は、1日置きで、利用者の体調や希望に合わせて実施している。浴室は2つあり、一般浴と機械浴室がある。機械浴のミストシャワーは、快適な洗身やミスト効果で利用者の満足度が高い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜の睡眠に対して、個々の生活リズムを尊重し、その方に合った休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職の指導の下、個々の薬の内容が確認できるようになっており、職員一人ひとりが把握し適切な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割やレクリエーションなどを行い、張りのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	活動予定以外にも天気の良い日など外出する機会を多く設け気分転換ができるよう積極的に支援している。	利用者は、事業所内庭園や近隣を散歩している。車で15分～20分程度の所に那須高原等の観光スポットがあり、四季を問わず気軽にドライブに出かけている。職員といっしょに食材の買出しに出かけたり、希望により外食等する場合がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金を所持し、買い物をするのはほとんど無いがお金を所持することで不安を解消できる方は、少しだけ所持していただき対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話の支援をしたり、便せんや封筒を用意し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放感のある空間になっており、季節感やその時期の行事などが感じられる物を飾るなどし、工夫をしている。	玄関を入ると室内は、木材梁が見える高い天井と広々したりリビング・畳間がある。廊下は回廊となっており、居室からリビングへつながっている。外にあるテラスの先には、柚子・梅等果実樹が植えられている。利用者は、明るく開放的空間でゆったりした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気の合った利用者様同士で過ごせることはもちろん、ユニット間の隔たりをなくすことで、より自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を自由に持ち込み、利用者様が心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、エアコンや洗面台、押入がある。夫婦で入居できる部屋もある。利用者は、テレビや筆筒、思い出の写真や縫いぐるみ等を持ち込、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの持っている力に合わせ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような環境を作っている。		